鎌倉史跡を巡る：９月・「鎌倉大仏」周辺の散策

〈はじめに〉鎌倉中心部今小路の西域：梶原・佐助・扇ヶ谷・常盤・長谷・極楽寺・由比ヶ浜には、古くからの史跡が残る。特に、御所の西域に、化粧坂・大仏・極楽寺の三切通による要塞を構え、京・西国からの進攻に備えた。

〈今月行程〉藤沢駅～バス～北条氏常盤邸跡～大仏切通～高徳院鎌倉大仏～桑ヶ谷療養所跡碑～稲瀬川を巡る。

① **常盤邸跡**：常盤邸跡の東半分谷奥は小字「御所の内」地名が残る。北条義時の子で、執権・連署を務めた北条政村の常盤邸が営まれた地。谷西半分に「殿中」地名が残る。後、正村甥：連署を務めた義政の邸宅があり、大仏切通の要衝に常盤一族が住居地。谷奥“やぐら”は採石場跡？現在の常盤の地は、谷戸の多くが幾段に造成、その平坦地を「館の台（タチンダイ）」と呼ぶ。やぐら前で、一羽のアゲハ（アゲハ紋は平家系譜）が迎えてくれた。

② **大仏切通**：バス停「火の見下」から通りを左に「大仏ハイキングコース」入って直ぐに「**大仏切通跡**」。この左側にも、常盤邸跡奥石切り場跡と同じような石切り場景色あり。小雨の中、現代の大仏坂通りの左山側に沿って歩く。

③ **高徳院鎌倉大仏**：文献資料が極少ゆえに謎多き「鎌倉の大仏」。なにしろ御堂消失の原因は津波？強風？現代的課題でもある。数々の課題に対応の、鎌倉（大仏）の研究進捗に期待しています。

④ ひょんなところに**桑ヶ谷療養所跡碑**。極楽寺全図だけを眺めていても片手落ちと、新しい発見でした！

常盤邸跡の谷戸

夏草の茂み掻き分け谷戸奥へ
奥のやぐら。左は法花堂跡？

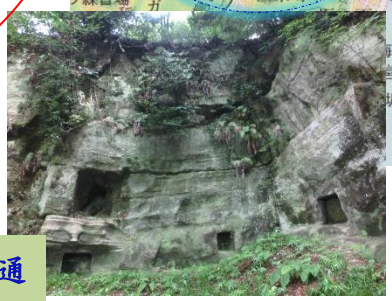
やぐら前、一羽のアゲハが迎えてくれた

謎多き鎌倉大仏様。関東三十三国総国分寺は東国における東大寺の役割を担ったか。

桑ヶ谷療養所跡

今を遡る七百年の昔永仁年間鎌倉幕府執権北條時宗公が極楽寺僧良観房忍性上人に命じ貧民救済の目的を以て療養所を設けたるはこの桑ヶ谷戸なりと云う。又文永年間大旱魃による飢饉の際施粥の炊き出しをなしたるもこの地なりと伝えらる。爾来年去り人逝いて幾度変転今は当時を語る跡形もなし、只この里に立ちて静かに偉人の善業を回顧すれば松韻風と共に来り我等に訓うるものあらん。　に桑ヶ谷の歴史を伝え往時を偲ぶよすがとせんとす。

極楽寺縁起に曰く、「長四年則集飢人於深沢谷而施粥救餓」と、また曰く、「委元帥平時宗朝臣、請上人一朝設倉筵、問訊答話之因、乃上人談千元帥公曰、治養病人者、八福田之随一、而仏菩薩之最行也、公聞之不吝歎焉、故新構療病所於桑谷、以集闔国之病者、而施治養」と以てこれが証とすることを得べし



優しい表情を見せる大仏切通

稲瀬川の数々の逸話を刻む

極楽寺寺域の広大さを実感！
改めて歴史の見方に気付く